

システム開発・ソフトウェア開発論文特集の発行にあたって



システム開発・ソフトウェア開発論文特集編集委員会

委員長 山里 敬也

和文論文誌Bにおける論文種別としてシステム開発・ソフトウェア開発論文（以下、システム開発論文）ができたのは、1999年4月からである。それまでは、施設・機械・部品・材料等の計画・設計等は対象論文である、と記されてあるのみで明確ではなかった。それを、1998年に論文誌/雑誌のあり方タスクフォースで議論し、決定している。採録基準についても明確化され、1999年1月の会誌会告にシステム開発論文の書き方の指針と査読における新規性、有効性、信頼性の適用についての周知文が掲載されている。その10年後の2009年には、投稿を喚起することを目的に第一回システム開発論文特集号が発行され、本特集が第三回にあたる。

和文論文誌編集委員会がシステム開発論文の投稿を奨励しているのは、開発の過程で遭遇する様々な問題を解決していくための知見、実際に開発してみることで分かる新たな応用など、開発に関わる創意工夫が和文論文誌Bの読者にとって有益な情報になると考えているためである。例えば、iPhoneを携帯電話と携帯音楽プレーヤーの組合せ、と捉えては、これほど人々を魅了するものになることは想像できないだろう。しかし、プリミティブな段階でのアイデアを実際に試作し、その効果を直接見せることができれば、そこで得られる結果は一目瞭然であり、単なる組合せを超えたものになる。このような開発研究の中から、いずれ、

ブレイクスルーとなる優れた開発研究が生まれるものと考えている。

本特集は、システム開発やソフトウェア開発に関わる貴重な成果を論文として発表して頂くことにより、開発研究に関わる優れた創意工夫を共有できるだけでなく、開発研究に携わる方々の活動活性化の契機となることを期待して企画したものである。これまで同様に今回も特集テーマとしては、特定の技術分野に絞るのではなく、広く通信技術全般を対象とした。また、本特集の編集委員会体制も前回同様に和文論文誌編集委員全員に本特集の編集委員を務めて頂いた。

本特集に投稿された論文数は、論文10編、レター3編であり、厳正な査読の結果、最終的には論文4編を採録することとなった。そのほかに3編の招待論文の御寄稿を頂いた。

最後に、本特集を発行するにあたり、御投稿頂いた方々、論文査読に御協力頂いた査読委員の方々、企画及び編集に御尽力頂いた編集委員各位に深く感謝申し上げます。

山里 敬也（正員：シニア会員） 平5慶大大学院博士課程了。工博。同年名大・工・電子情報・助手。平10同大・情報メディア教育センター・助教授、平16同大・エトピア科学研究機構、平19同大・エトピア科学研究所・准教授、平成22同大・教養教育院・教授、現在に至る。平21より本誌編集委員長、USN研副委員長。

システム開発・ソフトウェア開発論文特集編集委員会

委員長	山里 敬也
副委員長	高橋 応明
委員	石井 望・石川 博康・石川 義裕・王建青 大島 正明・岡部 寿男・加藤 寧・可児 淳一 上山 憲昭・坂井 栄治・佐野 裕康・塩川 茂樹 瀬戸 一郎・鷹取 泰司・濱住 啓之・馬 杉正男 増田 悦夫・前山 利幸・松田 哲史・三浦 周 水野 修・宮下 裕章・宮田 英之・森山 敏文 柳 生智彦・山崎 憲一・吉原 貴之・和田 忠浩